アーツコミッション・ヨコハマ（ACY）

平成 30 年度　事業報告書

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団

＜平成 30 年度　総括＞

相談業務を中心に横浜都心臨海部への人材集積、認知度の向上を担う中間支援事業として、横浜に集うアーティストやクリエイター・NPO・市民・企業・学校など、様々な創造活動を行う人たち（創造の担い手）のサポートを実施しました。

平成 28～30 年度、文化庁予算を活用しながら、「横浜版アーツカウンシル」実現へ向けたアーツコミッション・ヨコハマの機能充実を企図した年の最終年となりました。

1. 文化芸術創造都市横浜プラットフォームのモデルプロジェクト

文化芸術創造都市プラットフォーム・ミーティングについては、「文化芸術創造都市・横浜」の実現に向け、アーティスト・クリエイターだけでなく、クリエイティブな活動を行う企業や NPO、大学・研究機関等の関係者が出会い、交流し、相乗効果を生み出していく場となるプラットフォーム形成のためのミーティング・プログラムの最終発展として「WE BRAND YOKOHAMA」を開催。また、9 月には中間報告会という形で、これまでの 2016 年からの取組みを整理し、市民や関係者と共有する場を設けました。

のべ 179 名が参加し、横浜らしい先端的で発信力ある取組や、新たなビジネス創出のきっかけとなるとともに、文化芸術創造都市・横浜を実現していくための可能性が広がりました。

2. 相談・コーディネート業務

横浜に集うアーティストやクリエイター・NPO・市民・企業・学校など様々な創造活動を繰り広げる人たち（創造の担い手）の相談 201 件を受けました。これまで培ってきた官民双方のネットワークを活かしてアドバイスからマッチング、コンサルティングまで幅広く対応し、企業・行政とデザイナー、クリエイターとのマッチング等を行っています。

3. 助成を通じて、個性的なプログラムを発信

横浜から世界に芸術文化を発信する次世代のアーティストを育成し、そのキャリアアップを支援するための助成（創造都市横浜における若手芸術家育成助成　クリエイティブ・チルドレン・フェローシップ）では、9 名（うち 4 名継続）を採択。市内、国内での活動に加え、ニューヨーク、エッセン、香港、パリ等、世界各地に活動の輪を広げる機会となりました。

また、共生社会を目指して、アーティスト、クリエイター等による創造性を生かした社会包摂を試みる多様なプロジェクトを支援する助成（クリエイティブ・インクルージョン活動助成）では、6 事業（うち 4 事業継続）を採択。ひきこもりをテーマとしたアートプログラム「アイムヒアプロジェクト」や、寿町の住民とファッションデザイナーがコラボーレションした「YOKOHAMA INSIDE FASHION @KOTOBUKI」、老若男女・障害あるなしに関わらず誰もが参加できるダンスプログラム「育て！メッセンジャー事業」、大人の発達障がいをテーマとしたドキュメンタリー映画「だってしょうがないじゃない」などを支援し、芸術と社会の関係を深く問う機会となりました。いくつかの取り組みはメディアでの発信力も高く、多くの市民が作品を通じて共生社会について考えるきっかけづくりを生み出しています。

4. 助成評価の仕組みが前進

平成 29～30 年度にかけて実施したのが、助成採択者への伴走型評価を通じた人的支援の充実です。芸術と社会の関係性における評価に取り組む若手の研究者らを専門人材としてパートナーに迎え、採択者の成長、事業の成長、助成制度自体の成長を目的に行い、視察、ヒアリングやワークショップを通じて支援をしました。また、この活動を通じてＡＣＹ助成自体の社会的意義、価値などを分析。助成評価報告書という形でまとめて、発信しました。

5.『創造都市横浜マガジン』冊子を活用したプロモーション

文化芸術創造都市・横浜の取組み、創造界隈拠点、芸術祭や財団の公演・展覧会、また、まちづくりやデザインなどを話題に、ヒト、モノ、コトの切り口で毎月数本の読み物を WEB 記事で配信しています。このＷＥＢマガジン『創造都市横浜』は、439 本の記事の蓄積があります。そこで、これを活用して冊子としてまとめ、関係者、行政、企業、劇場・音楽堂・美術館、地域版アーツカウンシル、大学、図書館などへ届けて、未来に向けて創造都市横浜の可能性を広げるプロモーションを行いました。

6. 5 年間で 50 組のクリエイターを誘致

横浜での活動を考える若手アーティスト･クリエーターからの相談を助成申請につなげ、年間で 7 件を採択しました（申請 11 件）。前横浜市中期 4 か年計画の目標数値（平成 26～29 年度で 30 件）を越えた上で、結果的に 5 年間で 50 件のクリエイターを誘致しました

1 相談業務

相談件数（平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月） 総数 201 件

内容	件数	相手方	件数
紹介／マッチング	30	アート系	72
企画全般	50	クリエーター系／創造産業系	58
助成	36	行政	29
広報	2	一般企業	26
情報提供	36	市民団体	3
移転	11	その他	3
DB 登録希望	25	大学	7
視察／調査／取材	9	マスコミ	3
その他	2	オーナー	0
合計	201	合計	201

今年も様々な方から多様な相談を受けました。以下が、具体事例です。
･消防音楽隊の夏服デザイン
･健康福祉局の高齢者地域包括ケア施策の映像制作
･議会局の横浜市会ポスター
･文化観光局の PHOTO YOKOHAMA ビジュアル

2　文化芸術創造都市プラットフォーム

文化芸術創造都市･横浜の第2ステージにおいて、平成 28 年度から 30 年度の 3 カ年で、文化芸術振興、創造的まちづくり、創造的産業の育成等における様々なプレーヤー同士が出会い、相乗効果（シナジー）を生み出すための触媒機能を担う都市基盤（プラットフォーム）の形成をはかっています。今年度はその 3 年目として、昨年度実施した「3 つのモデルプロジェクト」の中間報告会や事業、フォーラム、ワークショップなど実施しました。

(1)「創造的思考で解く横浜の未来」～文化芸術創造都市プラットフォーム中間報告会」

平成 28 年度、29 年度のプラットフォームの取組み、「2059 FUTURE CAMP in YOKOHAMA」、「公共空間活用調査」、「横浜という体験をデザインする講座」の今後の予定について、中間報告会を実施いました。

日時：平成 30 年 9 月 11 日（火）19:00～21:30
会場：横浜美術館　カフェ小倉山
来場者：66 名
講師：石神夏希 （劇作家／ペピン結構設計、NPO 法人場所と物語理事長、The CAVE 取締役）
　　熊谷玄 （ランドスケープデザイナー/stgk 代表）
　　太刀川英輔（デザイン･ストラテジスト／NOSIGNER 代表）

(2)「WE BRAND YOKOHAMA」

文化芸術創造都市横浜の取組みの一環として、企業、行政、クリエイターらが参加し、横浜の未来に向けたプロジェクトを起こすワークショップを実施。「横浜をブランディングする」アイディア・プラン立案を目指し、横浜のステークホルダー・クリエイターと共に実施することで、相乗効果を生み出すための触媒機能を担うプラットフォーム形成へ寄与しました。

日時：第一回：2 月 26 日（火） 第二回：3 月 5 日（火） 第三回：3 月 12 日（火） 各 18:30～21:30
会場：THE BAYS
参加者数：第一回：42 名、第二回：38 名　第三回：33 名
ファシリテータ：太刀川英輔（NOSIGNER代表）、西田　司（オンデザインパートナーズ代表）、
熊谷　玄（stgk代表）

内容：①クリエイターからのコンセプト提示　②企業からの事例プレゼンテーション
③フューチャー・セルフ（イノベーションを起こすための未来人ワークショップ）
【事例紹介】
横浜 DeNA ベイスターズの取組み「I☆（LOVE）YOKOHAMA」
相鉄ビルマネジメントのまちづくり
元町SS会の取組み「第 4 期まちづくり」
JR 東日本の取組み「have a Yokohama」
大川印刷の取組み

3 助成

横浜市では、文化芸術創造都市の一層の推進を図るべく、才能豊かな新進アーティストなど将来の芸術家の芽を育む取組を推進し、ライフステージに応じた次世代育成（クリエイティブ・チルドレン）を幅広く展開しています。また、障害・人種・国籍・宗教・年齢・性別等の様々な違いを越えて創造的に課題解決を図るとともに、誰もが対等な関係で関わり合い、社会や組織に参画するという考え方（クリエイティブ・インクルージョン）をもって、事業を実施しています。これらの趣旨のもとアーツコミッション・ヨコハマ事業として 2 つの活動助成プログラムを実施しています。

「創造都市横浜における若手芸術家育成助成　クリエイティブ・チルドレン・フェローシップ」は、横浜から世界に文化芸術を発信する次世代のアーティストを育成し、そのキャリアアップを支援するための助成です。アーティスト活動へ助成を行っています。
「クリエイティブ・インクルージョン活動助成」は、共生社会の実現に向けて、アーティスト、クリエーターによる創造性を活かした社会包摂を試みる多様なプロジェクト（活動）を支援し、そのことが横浜の新たな魅力となり、世界へ発信されていくことを目指すものです。

また、横浜都心臨海部を創造的活動により活性化させる創造まちづくりの取組みとして、アーティスト、クリエイターの都心部への誘致をはかるための「アーティスト・クリエイターのための事務所等開設支援助成」を実施しています。

（1）創造都市横浜における若手芸術家育成助成　クリエイティブ・チルドレン・フェローシップ

応募総数：51 件 （舞台芸術 27 件、美術 24 件） ※うち継続 4 件
採択件数：9 件、交付総額：6,000,000 円
審査会：平成 30 年 5 月 16 日
報告会：平成 31 年 3 月 18 日

審査員：
窪田研二（キュレーター）　KENJI KUBOTA ART OFFICE 代表
中野仁詞（キュレーター）　神奈川芸術文化財団キュレーター、
第56回ヴェネチアビエンナーレ国際美術展日本館キュレーター
木村絵理子（キュレーター）横浜美術館主任学芸員
多田淳之介（演出家・俳優）東京デスロック主宰
富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ芸術監督
山口真樹子（ドラマトゥルグ）国際舞台芸術交流
中冨勝裕（プロデューサー）横浜市芸術文化振興財団　プロデューサー（ダンス）

①　青木　直介　（振付家、ダンサー）

1988 年、東京生まれ。14 歳よりブレイクダンスを始める。2010 年東京造形大学映画専攻卒業。在学中より美術作品、舞台作品、パフォーマンス、イベントなどの制作、発表を始める。ダンスカンパニーなどに参加した後、aokid city を主宰。2015 年、第 12 回グラフィック「1_WALL」グランプリ。2016 年、横浜ダンスコレクション 2016 審査員賞受賞。野外を舞台にした”どうぶつえん”というキュレーション企画を始動する。現在、東京造形大学 cslab 勤務。
サポート内容：ST スポットでのソロダンス公演作品制作、ダンスによる実践のためのイベント会場紹介など。

助成額：500,000 円

② 太田 信吾（映画監督・演出家・俳優）

1985 年生まれ。長野県出身。早稲田大学文学部にて哲学・物語論を専攻。大きな歴史の物語から零れ落ちるオルタナティブな物語を記憶・記録する装置として映像制作に興味を持つ。初の長編ドキュメンタリー映画となる『わたしたちに許された特別な時間の終わり』が山形国際ドキュメンタリー映画祭 2013 で公開後、世界 12 カ国で配給。俳優として演劇作品のほか、TV ドラマに出演。2017 年には初の映像インスタレーション・パフォーマンス作品を韓国のソウル市立美術館で発表した。

サポート内容：ドイツでの滞在制作、台本の英語翻訳、インタビュー記事作成・出稿

助成額：1,000,000 円

③ 小田桐 奨 （アーティストユニット・LPACK.所属）

アーティストユニット・LPACK.所属。最小限の道具と現地の素材を組み合わせ、国内の様々なスペースを「コーヒーのある風景」に変えるカフェ・プロジェクトや、各地の国際芸術祭におけるビジターのためのスペースづくり、美術館の教育普及プログラムと連動したワークショップスペースの設計など、アート、デザイン、建築、民藝などさまざまな領域を横断しながら、アーティストと鑑賞者、地域の人々とのコミュニケーションの場を創造している。

サポート内容：作品化された拠点「Daily Supply SSS」でのイベント実施、制作

助成額：500,000 円

④ 神里 雄大（作家、舞台演出家）

1982 年ペルー生まれ。近年は、世界各地を訪ね歩き、出会った人々から聞いた話を元に作品を構成するという執筆スタイルを採用している。2006 年「しっぽをつかまれた欲望」（作：パブロ=ピカソ）で利賀演出家コンクール最優秀演出家賞受賞。2018 年「バルパライソの長い坂をくだる話」で第 62 回岸田國士戯曲賞受賞。2016 年 10 月より文化庁新進芸術家海外研修制度研修員としてアルゼンチン・ブエノスアイレスに1年間滞在。2011 年度～2016 年度公益財団法人セゾン文化財団ジュニア・フェロー。

サポート内容：新作パフォーマンスの制作、公演、インタビュー記事作成・出稿

助成額：1,000,000 円

⑤ 川口 智子 （演出家）

1983 年生まれ。東京学芸大学大学院修了。劇作家・演出家の佐藤信に師事。2008 年より演出活動を開始。2018 年より取り組む『4.48 PSYCHOSIS』上演企画では、イギリスよりサラ・ケイン研究者のニーナ・ケイン氏をドラマターグに迎え、サラ・ケイン没後 20 年にあたる 2019 年に国内外ツアーを予定。香港をはじめ、アジアのアーティストとの共同制作も継続的に行っている。東京学芸大学非常勤講師。横浜の小さなアートセンター若葉町ウォーフ アーティスティック・アソシエイト。

サポート内容：テキストリーディングの横浜・仙台での再演、インタビュー記事作成・出稿

助成額：500,000 円

⑥ 玄 宇民 （アーティスト）

東京生まれ。生まれた地を離れた人々のありようと移動の記憶、マイグレーションをテーマに韓国と日本で映像作品を制作。最近作は戦前の日本に暮らした韓国人女性飛行士の足取りを俳優と共にたどる『未完の旅路への旅』(2017)。2016 年以降ソウル独立映画祭(韓国)、Taiwan International Video Art Exhibition(台湾)、ディアスポラ映画祭(韓国)で作品上映。東京大学文学部美学芸術学専修卒業。東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻博士後期課程修了。

サポート内容：香港・韓国でのリサーチ、映像作品の制作、インタビュー記事作成・出稿

助成額：1,000,000 円

⑦ 布施 琳太郎 （美術家）

1994 年東京生まれ。東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻在籍。先史時代の洞窟壁画と、iPhone をはじめとした無数の情報端末が形成する社会を接続し、イメージと支持体の関係を再考するインスタレーションや展覧会企画を発表。主な自主企画展に「秋山佑太+布施琳太郎『モデルルーム』」(Snow CONTEMPORARY)、「ソラリスの酒場」(the Cave/Bar333)、「新しい孤独」(コ本や)、「iphone mural(iPhone の洞窟壁画)」(BLOCK HOUSE)など。

サポート内容：批評雑誌の出版、個展の開催、インタビュー記事作成・出稿

助成額：500,000 円

⑧ 山縣 太一 （オフィスマウンテン主宰、俳優、演出家、劇作家、振付家、ダンサー）

演劇ユニット・オフィスマウンテン主宰、俳優、演出家、劇作家、振付家、ダンサー。1979 年、横浜生まれ。2001 年より演劇カンパニー・チェルフィッチュに俳優として参加。 各作品において自身の振り付けを行い、中心メンバーとしてチェルフィッチュを牽引。日常の無自覚な身体を自覚的に舞台上にのせるための独自のメソッドを考案し、ワークショップを横浜を中心に行う。2015 年より自身の作・演出する演劇ユニット・オフィスマウンテンを始動。『ドッグマンノーライフ』(2016)が第 61 回岸田國士戯曲賞最終候補にノミネート。

サポート内容：ST スポットでの新作公演の制作、ワークショップ開催

助成額：500,000 円

⑨ 山本 卓卓 （範宙遊泳／ドキュントメント代表、劇作家、演出家、俳優）

範宙遊泳主宰。劇作家・演出家。幼少期から吸収した映画・文学・音楽・美術などを芸術的素養に、加速度的に倫理観が変貌する、現代情報社会をビビッドに反映した劇世界を構築する。近年は、マレーシア、タイ、インド、中国、アメリカ、シンガポールで公演や国際共同制作なども行ない、活動の場を海外にも広げている。『幼女 X』で Bangkok Theatre Festival 2014 最優秀脚本賞と最優秀作品賞を受賞。『その夜と友達』で第 62 回岸田國士戯曲賞最終候補作ノミネート。公益財団法人セゾン文化財団ジュニアフェロー。急な坂スタジオサポートアーティスト。ACC2018 グランティアーティスト。

サポート内容：新作公演の執筆・公演、映画の撮影準備

助成額：500,000 円

(2)クリエイティブ・インクルージョン活動助成

応募総数：30 件（テーマ 11 件、自由 18 件、未選択 1 件） ※うち継続4件
採択件数：6 件　交付総額：4,500,000 円
審査会：平成 30 年 5 月 18 日
中間報告会：平成 30 年 10 月 16 日、報告会：平成 31 年 3 月 22 日

審査員：
栗栖良依（NPO 法人スローレーベル　ディレクター）
萩原昌子（NPO 法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク　事業推進部長／ 副理事長）
治田友香（関内イノベーションイニシアティブ株式会社　代表取締役）
曽我部昌史（建築家、神奈川大学工学部建築学科教授）
岡崎智美（横浜市民ギャラリーあざみ野　担当リーダー／主任エデュケーター）

①坪田義史
「ドキュメンタリー映画・大人の発達障がい（仮称）」　交付額：1,100,000 円

【実施内容】
製作期間：平成 31 年 2 月 22 日 完成予定、
平成 31 年 2 月 25 日～28 日 完成報告・試写映画祭出品、シンポジウム
平成 31 年 3 月 21 日 試写

内容：昨年度からの継続事業。市内在住の映画監督・坪田氏が、自身と家族を対象としたドキュメンタリー映画の上映、シンポジウム等を実施する提案。昨年度は映画を制作、今年度は、映画祭への出品や当事者などを迎えて意見公開していく上映プロジェクトを行う。

②あしおとでつながろう！プロジェクト（代表：おどるなつこ）
「育て！メッセンジャー事業」 交付額：500,000 円

【実施内容】
実施日 ①平成 30 年 8 月 17 日 ②平成 30 年 8 月 26 日 ③平成 30 年 11 月 24 日
④平成 30 年 11 月 28 日 ⑤平成 30 年 12 月 6 日
実施場所①象の鼻テラス ②吉野町市民プラザ ③栄公会堂 ④南太田小学校⑤六ッ川西小学校
共催　象の鼻テラス、ほか
協力・後援等　吉野町市民プラザ スローレーベル 南区社会福祉協議会 Faavo 横浜
ジョイカンパニー エヌ・クラップ ガッツ・ビート西 ぶどうの木
来場者数　1152 名（参加） 260 名（観覧）
販売・発行実績 イラストブック日本語版 200 部発行 英語版 100 部発行

内容：昨年度からの継続事業。横浜市内で、障がいの有無に関わらず、子どもから大人まで参加できるダンスのプログラムを実施する団体の活動。その活動の発展系として、これまで受講する側で参加してきた人達が、教える側に回る仕組みづくりを行う。

③NPO法人 国際障害者スポーツ写真連絡競技会（パラフォト）
「パラフォト･イマジネーション写真交流会「見える人と楽しむ」〈1stステップ〉 交付額：350,000 円

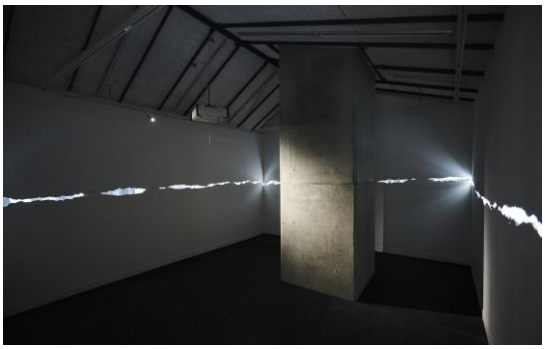
【実施内容】
実施期間：平成 30 年 1 月 26 日、27 日、 平成 30 年 2 月 16 日～3 月 3 日
会場：山手 234 番館、爾麗美術
来場者数：山手 243 名、中華街 140 名
共催：山手芸術祭、璽麗美術･鈴木正道（フォト横浜）
協賛：株式会社 平井印刷所
協力･後援等：写真家：ジョアン･マイヤー、中村 Manto 真人、山下元気、森田和彦、堀切功、小川和行、安藤理智、森正、植原義晴、丸山裕理、久下真以子、吉田直人／アドバイザー：真下弥生、安藤理智／デザイナー：株式会社相対性東京／アイマスク提供：日本ブラインドサッカー協会／出力：株式会社カラーサイエンスラボ／記録写真：秋冨哲生

内容：横浜を拠点に、障害者スポーツをモチーフとした写真その他メディアによる表現を通じて、障害の有無や世代の差、国や地域の壁を越えた視点によるコミュニケーションを行い、人と人が相互に理解しあう社会の形成を目指す団体の取組み

④渡辺篤
「ひきこもりの部屋写真募集プロジェクト」 交付額：900,000 円

【実施内容】
期間 平成 31 年 2 月 16 日～2 月 24 日
会場 黄金町高架下スタジオ
来場者数：1100 名
写真集販売数：約 350 冊
メディア掲載数：NHK「おはようニッポン」特集放送、朝日新聞での 2 度の紹介記事。
雑誌「AERA」での記事掲載など、大手メディアによる約 20 件の取材あり。

内容：横浜市内で活動するアーティスト渡辺氏が、ひきこもりの方々と協働し、彼ら／彼女らの部屋の写真を募集して、写真集を作る提案。アートと福祉のジャンルを横断し、社会包摂やソーシャルデザインの要素を持ったプロジェクトを通じて、社会に存在する痛みや孤立についての可視化を行い、問題を社会に共有することを目指している。



⑤Artmingle（代表：海老澤 彩）
「Future Feminism in Yokohama」 交付額：350,000 円

【実施内容】
イベント実施日：平成 30 年 7 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日
①平成 30 年 10 月 21 日 ②平成 31 年 1 月 26 日
会場：①BUKATSUDO、②よりみちベース
協力・後援等：イメージアンドジェンダー研究会、富士山展
来場者数：約 20 名

内容：今年度の新規採択事業。社会課題にアートを通して創造的なアプローチをするチームが、横浜市内でフェミニズムをテーマにした展覧会、リサーチ、勉強会をする提案。時代と共に変化していくフェミニズムという言葉が持つイメージについて、国際的な視点、アートの視点を交えて日本社会と共有していくプロジェクト。既存団体との連携や勉強会の定期開催、公開勉強会の開催を経て、国内外の「フェーミニズム」のアートシーンへの理解へと繋がりました。

⑥スタジオニブロール （代表：矢内原充志）
「YOKOHAMA INSIDE FASHION @KOTOBUKI」 交付額：1,300,000 円

【実施内容】
実施日 ①平成 30 年 10 月 4 日 ②平成 31 年 2 月 27 日～3 月 9 日
会場 ①寿町総合労働福祉会館 ②BankART SILK
来場者数 ①40 名 ②720 名
ビジュアルブック発行 350 冊

メディア掲載本数：40 件
（読売新聞、神奈川新聞、東京新聞、
ヨコハマ経済新聞、他）

内容：寿町のすぐ近くに仕事場があるファッションデザイナー矢内原氏が、寿町に暮らす、働く、出入りする人達と対話し、服をデザインする。そのデザインをブックレットや展覧会、WEB メディアという形で発表する。全てを等しく内包していく創造性を“ファッション”で表していく創作活動。

(3)平成 30 年度 アーツコミッション・ヨコハマ助成報告会

平成 30 年度の 2 つの助成制度について審査員に向けた報告会を一般公開し行いました。
報告会は、各アーティストや活動主催者のプレゼンテーション、審査員講評を行う第一部、アーツコミッション・ヨコハマ事業として年間通じて取り組んできました助成対象者へのサポートの内容について解説する第二部で構成し実施しました。

①創造都市横浜における若手芸術家育成助成 クリエイティブ・チルドレン・フェローシップ報告会
日時:平成 31 年 3 月 18 日(月)15:00～18:15
会場:BUKATUDO
来場者数:16 名

②クリエイティブ・インクルージョン活動助成　報告会
日時：平成 31 年 3 月 22 日（月）17：00～20：00
会場：mass×mass 関内フューチャーセンター workshop studio
来場者数：18 名

(4)アーティスト・クリエーターのための事務所等開設支援助成

応募総数:11 件(一期 5 件、二期 6 件)
採択件数:7 件(一期 2 件、二期 5 件)
交付金額:1,945,280 円
審査員:　井手美由樹(中小企業診断士)
伊東祥次(プロダクトデザイナー/デザイニト株式会社 代表取締役社長)
森 未祈(横浜市民ギャラリー 学芸員)
審査会:一期 9 月 27 日、二期 1 月 31 日

交付先		分野	金額
1	秋山直子	写真	129,600
2	佐野彩夏	ファインアート	348,480
3	高野萌美	ファインアート	232,200
4	津田道子	ファインアート	75,000
5	矢板建築設計事務所 (八板千恵)	建築事務所	500,000
6	川島泰典	イラストレーター	342,000
7	澁谷忠臣	イラストレーター	318,000
		合計	1,945,280

(5) ACY 助成事業　専門サポート業務委託

クリエイティブ・チルドレン・フェローシップ、クリエイティブ・インクルージョン活動助成の継続的なサポートや、評価・検証を知識と実績のある専門家に業務委託し、各助成事業、申請者個人、ACY 助成制度の成長を促すプログラムを実施。同時に、伴走型評価として、各申請事業の評価を行い、報告書をまとめました。

【実施内容】

実施期間：平成 30 年 4 月～平成 31年 3 月

協働：国際芸術祭及び地域アートプロジェクトの事業評価検証会運営事務局（代表：熊谷薫）

内容：①アーツコミッション・ヨコハマの助成プログラムの採択者（交付者）のサポート

個別面談、情報提供、アドバイス

②助成プログラムの審査・視察補助

審査・報告会実施時の事務局業務サポート（記録等）

③アーツコミッション・ヨコハマの助成プログラムの評価・検証

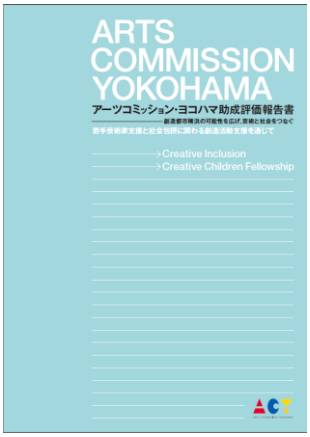
評価設計、指標設計（ACY と協働）

調査方法検討→調査実施（アンケート等）

アンケート集計（事前事後、本番参加者に実施）

インタビュー設計（面談による）、データ分析

報告書編集、執筆、デザイン



報告書：平成 31 年 3 月 31 日発行

アーツコミッション・ヨコハマ助成評価報告書

PDF ファイル　71p　カラー

4　創造都市プロモーション

文化芸術創造都市・横浜の取り組みについてアートやデザインのファンに向けて広く周知するため、横浜市都心部における諸活動を紹介するプロモーション活動を行う事業。イベント等の催事のほか、創造都市政策のもとに横浜に集った人材やプロジェクトなどを、ウェブサイト（SNS 含む）を運用して発信しました。また今年度は「パフォーミングアーツ」をテーマとして特集号を冊子発行しました。

(1) WEB マガジン『創造都市横浜』

創造都市横浜の魅力を紹介するメディア。Facebook、Twitter 等の SNS と連動し、取材・執筆を基本に「読みもの」として情報発信を行いました。

掲載記事：40 本、Facebook 93 本

Twitter 75 本

編集方針：アート、産業、まちづくりなど、広くクリエイティブな活動を取り上げる。イベント情報に限らず、日常的な取り組みや中長期的なプロジェクトなども読み物としてストーリー性を加えて紹介。クリエイティブな視点で横浜の人や街を取材し、①特集、②ひと、③モノ、④コト、⑤街、⑥食べる、⑦コラム、⑧イベントのカテゴリーを設け、記事を作成。

①アクセス数　（URL：yokohama-sozokaiwai.jp 内）

月	アクセス数	月	アクセス数
4 月	179,976	10 月	206,611
5 月	169,139	11 月	183,079
6 月	142,799	12 月	150,144
7 月	132,489	1 月	149,937
8 月	162,661	2 月	140,532
9 月	183,079	3 月	146,276

合計　1,948,983（前年 1,794,281　前年度比 108%）

②Facebook いいね数

月	いいね数	月	いいね数
4 月	20,944	10 月	20,901
5 月	20,915	11 月	20,881
6 月	20,890	12 月	20,873
7 月	20,879	1 月	20,855
8 月	20,878	2 月	20,828
9 月	20,858	3 月	20,829

③Twitter フォロワー数

月	フォロワー数	月	フォロワー数
4 月	7,921	10 月	7,926
5 月	7,937	11 月	7,950
6 月	7,962	12 月	7,973
7 月	7,973	1 月	7,983
8 月	7,890	2 月	8,019
9 月	7,949	3 月	8,018

(2) 横浜市クリエイターデータベースの作成

ACY の活動の成果として、都心臨海部に集積するアーティストやクリエイターの力を市内の事業に繋ぎ、さらに横浜の魅力を生み出し発信していくことを趣旨に、グラフィックや WEB 等のデザインに関わるクリエイターのプロモーションのための検索・紹介機能に優れたサイト「横浜市クリエイター・データベース」を平成 28 年度に立ち上げ、29 年度はその運用を行いました。利用者のアンケートを実施し、細かな改修を行っています。

【概要】
名称：横浜市クリエイター・データベース　URL　https://acy.yafjp.org/creatorsdatabase/
内容：クリエイターの制作事例、得意分野提案、会社概要を紹介するページで構成されたサイト

登録者数：45 組（うち今年度 8 組、前年 37 組）
登録者；グラフィック、WEB、映像、写真、イラスト等、クライアントワークを行っている
　　デザイナー、もしくはその方が代表者を務める法人等。
利用者想定：企業、行政各部局、NPO 等

平成 30 年度アクセス数 210,781 （前年 103,767 前年度比 203%）

（3）『創造都市横浜』特集号の発刊

WEB マガジン『創造都市横浜』の 439 本の記事から選りすぐりのものをテーマごとにまとめ、今年度は「パフォーミングアーツ」をテーマとして、横浜が行ってきた文化施策のプログラムの連続性、一貫性をアーカイヴし、少し未来への記事を足して、物語性と共に伝えていく特集号を発行しました。
冊子仕様：Ａ4　128 ページ　カラー 1000 部

5　関内外ＯＰＥＮ！１０“ＲＥＭＩＸ”

都心臨海部に集積したアーティストやクリエイターが、クリエイティブ好きの市民に向けてスタジオを開き、ワークショップやトークを共に楽しむイベントです。10 回目を迎えた今年度は、クリエイターが共同して実施する「道路のパークフェス」と個別に実施する「オープンスタジオ」を行いました。道路のパークフェスは、「関内フード＆ハイカラフェス」や、「馬車道まつり」と合同開催し、街方へ積極的にプレゼンテーションしていくことで、より深く市民とクリエイターが交流する機会となりました。また、スマートイルミネーション実行委員会、横浜まちづくり倶楽部と質の高い夜間のアートイベントを共同開催し、新たな横浜の魅力を発信しました。

日程：平成 30 年 11 月 3 日（土・祝）、4 日（日）
会場数：50 会場＋道路のパークフェス
参加スタジオ数：135 組
実施プログラム数：74 プログラム
来場者数：3300 名
インターン生の受け入れ:芸術系、建築系、文学系等の学部から 4 名

【スタジオ等の一覧】

	アトリエ、スタジオ名	イベント名
1	モトマチポート	元町OPEN！６
2	マツダホーム	マツダホーム見学会
3	みかんぐみ	みかんぐみ OPEN!10
4	無厳庵	茶道体験
5	株式会社プラプラックス	plaplax(プラプラックス)のオープンスタジオ
6	小泉アトリエ	小泉アトリエ　オープンスタジオ
7	ウミネココ、トキワ105	オープンアトリエ
8	旅するコンフィチュール	オープンハウス（工房販売日）
9	有限会社アイトゥーン	アニメーションスタジオ「I.TOON」
10	マツモトコーヒーロースターズ レイジーオールドサン	マツモトコーヒーロースターズ
11	patio-labo	木下直人　個展
12	Hair&Make ZEN × 着物処『桃-MOMO-』× Studio VISION	横浜スカーフを使ったヘアアレンジ体験＆「着物のステキな女性＠関内」写真作品展示
13	トキワビル202	オープンスタジオ
14	nibi　（ニビ）	金属でつくるアクセサリーワークショップ
15	株式会社ボイズ	ボイズ OPEN!（仮）
16	ike atelier	オープンスタジオ2018
17	mass×mass関内	マスマスツアー
18	ライトハウス	わかるわからないということじゃない
19	映像グループ ローポジション	ミニ上映会 in ローポジション
20	横濱元町AASTUDIO	建築家と話そう
21	ノガン株式会社	NOGAN OPEN!
22	アンイースタジオ/Art n' English Studio	スーパーボールを作ろう！（まだ変更可能性あり）
23	アトリエ ドゥウェル　合同会社	dwell open gallery
24	bear（武久絵里）	とじる部屋
25	Art Connect Yokohama. × ホリゾントデザイン	「馬車道でお持ち帰りワークショップ」vol.3
26	末吉工舎	オープンスタジオ
27	deskgarden	URBAN WALK ZASSO @関内外OPEN!10(仮称)
28	kosha33・kosha33ライフデザインラボ	くらしの実験室マルシェ～マイストーリーバッグお披露目会～
29	Hamanishi DESIGN	Hamanishi DESIGN オープンスタジオ
30	NDCグラフィックス	オープンオフィス＆「ビックリエイティブショップ」ポップアップ開店！
31	STGK Inc.	Cafe stgk
32	泰生ポーチ1F・フロント／関内SNEC、ピクニックルーム 、nitehi works+KSAG	子どもたちとつくる「ゆたかなイばしょ」
33	マツイアートマネジメントオフィス	脳を少しだけやすめてみよう・・
34	ひらがな商店街アートスペース「と」	念形師 家元 須永健太郎ワークショップ　めしあがれボナペティッツ
35	アトリエ・モビル/有形デザイン機構	オープンスタジオ
36	LAUNCH PAD GALLERY	消しゴム版画で絵本を作ろう！
37	天野和俊デザイン事務所with松井壮介	天野和俊デザイン事務所オープンスタジオ with 松井壮介
38	相澤事務所	「チナバー　by aizawa office」
39	Studio Nibroll+LAB	2018会議フェス
40	ヨコハマホステルヴィレッジ	寿パーティー@YHV ＆ 寿ナイトウォーク
41	横濱帆布鞄	AUTUMN WEEK WORKSHOP
42	IIDA Archiship Studio / Archiship Library & Cafe	アート＋骨董マーケット
43	otonomori	みんなで楽しむ Wellness yoga
44	NPO法人THE DARKROOM INTERNATIONAL	魅惑の横浜をポストカードにしよう！
45	IN FACTORY/関内桜通り	IN FACTORY/革でメダルや動物をつくろう‼□
46	IN FACTORY/atelier	IN FACTORY×ワークショップ～レザーとオリジナル真鍮金具で手作り体験～
47	BUKATSUDO	BUKATSUDO館内ツアー
48	株式会社後藤武建築設計事務所	open studio
49	古市久美子建築設計事務所	オープンスタジオ
50	トキワビル班（アトリエモビル、ハイアーキテクチャー、環境デザイン・アトリエ）	常盤ノブ
51	トキワビル班（NPO　S.A.I 、ダンスカンパニー「ケダゴロ」）	ケダゴロ
52	うたうははごころ	うたうははごころLIVE in 関内外オープン10！
53	前田篤伸建築都市設計事務所	オープンスタジオ
54	abanba（abanba、石花 かねき）	石花（ロックバランシング）をしながら
55	廃材標本 KUアーキスタジオ	新井ビルコレコレ展　－廃材標本　これまでとこれから－
56	株式会社 KS AG　※NO33でカウント済。	粘土塗料で何でも塗ってみよう！
57	ペチャクチャナイト横浜	Pechakucha Yokohama presents デザイン大喜利
58	ペチャクチャナイト横浜	ペチャクチャナイト横浜vol.11
59	ペチャクチャナイト横浜	Pechakucha Yokohama presents これからどうなる関内外!?
60	オンデザイン	「たべれる模型WorkShop」 &「 30のおいしい家」展
61	ファブラボ関内	⑴名前を入れて完成！季節のアクリルチャーム作り、 ⑵新方式！メタリックパウダープリントで作るキラキラプリントグッズ
62	509 NoAzu	ペイントパックルーム
63	クリエイター合同チーム泰生ビル・泰生ポーチ班	木漏れ日カフェラウンジ
64	クリエイター合同チーム泰生ビル・泰生ポーチ班	秋の風船花見・風船ワークショップでさくら通りの泰生ビル屋上にたくさん花を咲かせよう！
65	道路班	こどもとクリエーターの交差点（らくがき牧場他）
66	ネットワーク班	ジェネレーションツアー
67	西原尚	ガラガラぶんぶん
68	アートスペース「と」	めしあがれボナペッツ
69	新井ビル班	屋根の上のオセロ
70	クリエイター合同チーム泰生ビル・泰生ポーチ班	桜通りで秋のお花見
71	松島ビル4F	オープンスタジオ
72	ときにわ/環境デザイン・アトリエ	黄金茶室 in 関内
73	シネマジャック＆ベティ	ミニシアター＆映写室見学ツアー
74	黄金町エリアマネジメントセンター	オープンスタジオ

６　ドックヤードガーデン活用事業（施設名：BUKATSUDO）

ドックヤードガーデン活用事業運営協議会を通じて、参加 5 社（横浜市、三菱地所（株）、三菱地所プロパティマネジメント（株）、（株）リビタ、当財団）で情報共有を行っています。“大人のためのシェアプレイス”をコンセプトに作られた施設は、みなとみらい地区で働く人々の心をつかみ、新たなコミュニティ拠点へと成長しています。BUKATUSDO の利用者やクリエーターの紹介、財団自主事業での利用、各種広報協力を行いました。

７　国際舞台芸術ミーティング in 横浜（TPAM in Yokohama 2019）

今年で開催から 24 年目を迎えるアジアで最も古い国際的な舞台芸術のプラットフォーム。PARC（国際舞台芸術交流センター）を事務局に、当財団、国際交流基金アジアセンター、公益財団法人神奈川芸術文化財団の 4 者が実行委員会として主催し、組織の垣根を越え、都心臨海部の創造界隈を中心に多様な文化施設が協働しました。

9 日間にわたり、同時代の舞台芸術に関わるプロフェッショナルが国や地域を超えて出会い、公演、ディスカッション、ミーティングなど多彩なプログラムを通して情報交換、相互学習、ネットワーキングを行いました。より豊かな国際ネットワークづくりに貢献し、様々な作品・人材を横浜から世界へ発信しました。

オープニングシンポジウム

エコ・スプリヤント／ソルト

ＧＥ１４／ファーミ・ファジール＋山下残

ＴＰＡＭエクスチェンジ

会期：平成 31 年 2 月 9 日～17 日

会場：KAAT 神奈川芸術劇場、Kosha33、横浜市開港記念会館、横浜赤レンガ倉庫 1 号館
YCC ヨコハマ創造都市センター、急な坂スタジオほか

公演数：10 演目 21 公演 1 展示（公演プログラム「TPAM ディレクション」）

フリンジ：51 団体・36 会場・250 公演

総来場者数：26883 名
海外からの参加国数：41 ヵ国
登録者＋アーティスト：884 名（うち来日された方は 401 名）
うち来日アーティスト･ディレクター等：34 名（前年度 29 名）

＊当財団からは、グループ・ミーティング「助成プログラム紹介」「都市、リサーチ、（パフォーミング）アートのグラデーション」及びスピード・ネットワーキングにＡＣＹ職員が参加しました。

８　英国ホストタウン交流事業

今年度から新たにブリティッシュ・カウンシルと連携し英国交流ホストタウン事業として、「平等・多様性・包摂（EDI)」をテーマに先進的な取組みを行うクリエイティブ・スコットランドから専門家を招き、フォーラムとワークショップを開催しました。クリエイティブ・スコットランドによる同テーマでのフォーラム開催は全国的にも珍しく、当日は横浜市内外から芸術文化のみならず、福祉･大学関係者、メディアなど幅広い人材が横浜に集いました。

全国に先駆けたインパクトのある事業を通して、文化芸術創造都市・横浜の文化芸術活動の中核を担う財団としてリーダーシップを発揮するとともに、創造性豊かな市民生活に寄与しました。また、ここでの新たな学び（アウトカム・ベースでのプログラム作成）と手法を取り入れ、今後の ACY の取組みに反映させるなど、芸術と社会の関係づくりを推進する契機としました。

(1)フォーラム

ブリティッシュ･カウンシルとの連携のもと、英国側からゲストとしてミリカ･ミロシェビッチ氏を招聘、横浜に集うアーティストやクリエイター･NPO･市民･企業･学校など、様々な創造活動を展開する創造の担い手を対象としたプログラムを実施。

フォーラム「クリエイティブ･スコットランドの実践紹介、日本における取組紹介、パネルディスカッション　他」
日時：平成 31 年 2 月 19 日（火） 14:00～17:00
会場：神奈川県民ホール･大会議室
プレゼンター：山崎優、大前光市、秦野五花、矢内原充志、金野千恵、中村美亜
パネルリスト：ミリカ･ミロシェビッチ、大前光市、矢内原充志、金野千恵、杉崎栄介、中村美亜
来場者数：83 名

(2)ワークショップ

1 日目：「芸術と社会：領域を超えた連携が可能にすること」
日時：平成 31 年 2 月 20 日（水） 14:00-17:00
会場：象の鼻テラス　　参加者数：27 名
ファシリテーター：ミリカ･ミロシェビッチ

2 日目：「文化行政･文化施設における平等、多様性、包摂について」
日時：平成 31 年 2 月 21 日（木） 14:00-17:00
会場：象の鼻テラス　　参加者数：23 名来場
ファシリテーター：ミリカ･ミロシェビッチ

英国ホストタウン交流事業

平成 30 年度　事業報告書

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団

＜平成 30 年度　総括＞

今年度から新たにブリティッシュ・カウンシルと連携し英国交流ホストタウン事業として、「平等・多様性・包摂（EDI）」をテーマに先進的な取組みを行うクリエイティブ・スコットランドから専門家を招き、フォーラムとワークショップを開催しました。クリエイティブ・スコットランドによる同テーマでのフォーラム開催は全国的にも珍しく、当日は横浜市内外から芸術文化のみならず、福祉・大学関係者、メディアなど幅広い人材が横浜に集いました。全国に先駆けたインパクトのある事業を通して、文化芸術創造都市・横浜の文化芸術活動の中核を担う財団としてリーダーシップを発揮するとともに、創造性豊かな市民生活に寄与しました。また、ここでの新たな学び（アウトカム・ベースでのプログラム作成）と手法を取り入れ、今後のACYの取組みに反映させるなど、芸術と社会の関係づくりを推進する契機としました。

1 「英国ホストタウン交流事業」

今年度より、新たな取組みとしてブリティッシュ・カウンシルと連携し、英国交流事業に取組みました。夏期、職員を英国に派遣し、エジンバラで開催された会議「モメンタム」に参加すると共に、クリエイティブ・スコットランドと関係構築に務めました。このネットワークを活かし、2 月にはクリエイティブ活動における「平等・多様性・包摂（EDI）」について先進的な取組みを行うクリエイティブ・スコットランドから専門家を招き、フォーラムとワークショップを開催。横浜市内外から、芸術文化関係、福祉関係、大学など幅広い人材が横浜に集いました。

（1）フォーラム

ブリティッシュ・カウンシルとの連携のもと、英国側からゲストとしてミリカ・ミロシェビッチ氏を招聘、横浜に集うアーティストやクリエイター・NPO・市民・企業・学校など、様々な創造活動を展開する創造の担い手を対象としたプログラムを実施。

フォーラム「クリエイティブ・スコットランドの実践紹介、日本における取組紹介、パネルディスカッション　他」
日時：平成 31 年 2 月 19 日（火）　14：00～17：00
会場：神奈川県民ホール・大会議室
プレゼンター：山崎優、大前光市、秦野五花、矢内原充志、金野千恵、中村美亜
パネルリスト：ミリカ・ミロシェビッチ、大前光市、矢内原充志、金野千恵、杉崎栄介、中村美亜
来場者数：83 名

（2）ワークショップ

1 日目：「芸術と社会：領域を超えた連携が可能にすること」
日時：平成 31 年 2 月 20 日（水）　14:00-17:00
参加者数：27 名
会場：象の鼻テラス
ファシリテーター：ミリカ・ミロシェビッチ

2 日目：「文化行政・文化施設における平等、多様性、包摂について」
日時：平成 31 年 2 月 21 日（木）　14:00-17:00
参加者数：23 名来場
会場：象の鼻テラス
ファシリテーター：ミリカ・ミロシェビッチ

2　決算書　　別紙参照